

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**

**実施報告書**

**兵庫県 神戸市立大沢中学校**





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

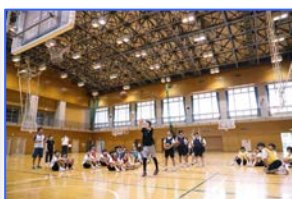
まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実施内容

■期 日：2020年1月31日（金）

■ク ラ ス：2年1組（17名）

■オリンピアン：脇田 寿雄 先生（ボブスレー）【出場オリンピック／カルガリー大会、アルベールビル大会、リレハンメル大会、長野大会】

■授業のながれ：運動の時間（1時限）

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、オリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）を紹介し、運動の時間は楽しく元気良く取り組んでほしいと話す。運動の時間での約束事として、競うことも大切だが、楽しさの限界を超えるように「限界突破」してほしい。また、「お互いを理解すること、1人だけでなく相手のことを考えて取り組む「思いやり」、2人やグループで実施するので「協力」が必要だと伝え、準備体操に移る。
- ・準備体操として、ストレッチ、人間知恵の輪を実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・ボブスレーリレーを4班対抗で実施。班毎に1列に連なり、最後尾の人から、前の人の間をくり抜いて先頭に付くことで進んでいくリレー。2周したら、ゴールラインまで全員で走り、全員がゴールするまでのタイムを競う。作戦タイムを設け、より早くゴールするための作戦を考える。
- ・作戦として拳がった「諦めない」という気持ちは大人になっても大切なことなので忘れないうちに伝えてほしいと伝える。

## 4. まとめ



- ・皆が中学2年生であり、大人になるまでに多くのことを学び、自分に取り込む時間がたくさんあるので、さまざまなことにチャレンジしてほしいと伝える。今日の運動の時間でお互いに協調し、班で協力したこと、競い合いながらタイムを更新したこと、相手のことを思いやり、敬意をはらったことはオリンピックバリューに結び付いている。次の座学の時間では経験を踏まえてオリンピックバリューを詳しく説明すると予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・スライドや映像を見せながら、ボブスレー競技の特徴やルールについて説明。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、努力する、諦めない」「フレンドシップ＝友情、仲間、協力する」「リスペクト＝敬意/尊重、思いやり、感謝」。また公平性(Equity)や皆が力を発揮して最大のパフォーマンスを発揮すること(Inclusion) 誠実、高潔(Integrity)という言葉も覚えておいてほしいと伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：①3つのオリンピックバリューから1つを選ぶ。②班の目標を決め達成するために取組みたいことや意識したいことを具体的に考えてみよう。
- 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）
- 「仲間を大切にするために人の意見を聞く」「自分の意見を持ち発言する」「皆で協力して達成する」(フレンドシップ)
- 「人の意見を否定しない」「周りのアドバイスに耳を傾ける」「自分の行動に自信を持つ」「個性を理解し合う」「仲間を尊敬する」
- 「人を大切にして、卒業するまでに皆をハッピーな気持ちにさせる」(リスペクト)

4. まとめ



- ・グループワークでの発表は、発表者の勇気と、班で協力して意見を出して取り組んだ成果であると話す。今後の中学校生活でも勉強や部活動に果敢に取り組み、「限界」を感じた時は、ルールを守った上で、クラスの仲間と協力して「突破」してほしい。
- ・ボブスレーのスパイクや、下町ボブスレーについての書籍を紹介し、授業終了。

■ 集 合 写 真

2年1組



■ 記 念 品 贈 呈

2年1組



■ 修 了 証 贈 呈

